

平成30年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるとともに、各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「瀧口修造と彼が見つめた作家たち」、「遠くへ行きたい（仮称）」、「明治後期の美術」等を開催する。

企画展では、明治150年関連企画として「生誕150年 横山大観展」を開催する。また、都市におけるアートプロジェクトの先駆者として世界的に名高いアーティストのアジア初個展「ゴードン・マッタ＝クラーク回顧展（仮称）」や、ASEAN設立50周年を記念し、韓国、シンガポール、日本の国立美術館が初の共同企画を行った「アジアの目覚め：美術と社会 1960-1990年代（仮称）」、日本の前衛美術を主導した洋画家の大回顧展「福沢一郎展（仮称）」を開催する。

〈工芸館〉

所蔵作品展では、前年度からの継続として、明治150年にあわせ、約3年にわたる修復・復元を行ってきた鈴木長吉《十二の鷹》のお披露目をするるとともに、明治の精神を今に伝える名工の作品展示を行う。また、恒例となっている夏季の子供企画において、工芸の多様な技法が可能とする表現の魅力について検証する。会期中は、子供及び一般来館者向けの「セルフガイド」を用意し、工芸の基礎的な知識の普及に努める。年末か

ら年始にかけては、時代を越えて人々を魅了してきた近・現代の工芸の名品を特集し、所蔵作品の新たな魅力の紹介と活用を図る。

企画展では、スウェーデンとの外交関係樹立150周年を記念して、同国を代表するデザイナーであるインゲヤード・ローマンの器などを展示紹介する。また、備前焼にスポットをあて、近世から現代までの代表作で歴史的な流れを紹介する「備前展（仮称）」を開催する。加えて、本館ギャラリー4では、デザイン展としてグラフィック・デザインの創成期に活躍した図案家・杉浦非水を取り上げ、ポスターや図案集などを展示するとともに、図案教育に携わった一面を検証する内容を盛り込んだ展覧会を開催する。

（京都国立近代美術館）

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間5回の展示替えでコレクションを紹介する。

企画展では、「明治150年展 明治の日本画と工芸」を開催し、明治の日本画や工芸作品、工芸図案を展示し、近代化していく社会の中で生み出された明治の美術作品を紹介する。「生誕150年 横山大観展」は、生誕150年を記念して開催する大回顧展であり、近代日本画家の巨匠と知られる横山大観の代表作を紹介する。「バウハウスへの応答」では、平成31年に設立100年を迎えるバウハウスの特に教育プログラムの紹介と日本への影響を探る。なお、本展の一部は、ベルリンで開催される展覧会「**Bauhaus Imaginista**（創造のバウハウス）」でも紹介される。「生誕110年 東山魁夷展」は、東山魁夷の生誕110年を記念して京都では30年ぶりに開催される大回顧展であり、戦後の日本を代表する国民的画家と謳われた東山の代表作を紹介する。「没後50年 藤田嗣治展」は、海外からも代表作を借用する藤田展の決定版ともいえる内容である。「世紀末ウィーンのグラフィック～京都国立近代美術館所蔵作品による～（仮称）」では、平成27年度に京都国立近代美術館に所蔵したウィーン分離派を中心とするコレクションの全貌を紹介する。「京都の染織（仮称）」では、戦後京都で多様に展開され、海外の作家にも影響を与えた京都の染色作家の活動を検証する。

（国立映画アーカイブ）

上映会（所蔵作品上映）及び展覧会のタイトルには全て「国立映画アーカイブ開館記念」と冠し、館名及び開館記念事業としての周知を図る。

上映会では、開館後初の上映会として、国立映画アーカイブのスローガン「映画を残す、映画を活かす。」をタイトルに掲げ、所蔵作品から近年の復元作品及び状態の良いプリントを厳選し、監督や俳優の未公開プライベート映像とともに上映する「国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。」を開催する。また10月には「国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。－無声映画篇－」を開催し、上映機会の極めて少ない米、仏、独、日の100年前と90年前の所蔵劇映画を上映する。この上映会での夜の回は生伴奏付きとする。その他所蔵作品上映では、明治150年企画である「国立映画アーカイブ開館記念 映画にみる明治の日本（仮称）」、展覧会と連動した「国立映画アーカイブ開館記念 生誕100年 美術監督 木村威夫」、日本映画を代表する映画人の業績を顕彰する「国立映画アーカイブ開館記念 映画プロデューサー 黒澤満」等を開催する。また、東京国際映画祭の協賛企画として「アメリカ映画特集（仮称）」を

開催する。共催企画上映では、「国立映画アーカイブ開館記念 第40回 PFF」や「EU フィルムデイズ 2018」のほか、スウェーデン映画協会との共催で京都・福岡にも巡回する「日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年 スウェーデン映画特集（仮称）」、ロシア文化フェスティバル組織委員会との共催により開催する「国立映画アーカイブ開館記念 日本におけるロシア年 2018 ロシア・ソビエト映画祭」など、共催によって可能となるプログラムの実施に積極的に取り組み、多彩な鑑賞機会の提供を図る。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」を実施するとともに、ポスターなどの宣伝美術を通じて黒澤明作品の国際性を取り上げる展覧会「国立映画アーカイブ開館記念 没後 20 年 旅する黒澤明 榎田寿文ポスター・コレクションより」、映画美術監督木村威夫を巡る展覧会「国立映画アーカイブ開館記念 生誕 100 年 映画美術監督木村威夫（仮称）」を開催する。さらに、展覧会と上映・教育普及事業との有機的な連携を模索するとともに、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。また、館外における映画資料の展示活動を充実させる。

（国立西洋美術館）

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示をするとともに、版画素描展示室において版画・素描展及び教育普及展示を行う。

企画展では、前年度に引き続き「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」を開催するほか、「ミケランジェロと理想の身体」では、古代彫刻とミケランジェロの彫刻を比較することにより、西洋における理想の身体美に迫る。「ルーベンス展—バロックの誕生」では、ルーベンスがイタリアから受けた影響に加え、彼が次代のバロックの芸術家に与えた影響を検証する。「ル・コルビュジエ 絵画と建築—ピュリスムの時代（仮称）」では、ル・コルビュジエが推進した近代芸術運動「ピュリズム」を多角的に紹介する。

（国立国際美術館）

所蔵作品展では、企画展「プーシキン美術館展—旅するフランス風景画」、「1980 年代 日本の現代美術（仮称）」及び「クリスチャン・ボルタンスキー展（仮称）」開催に合わせ、三期に分けて国立国際美術館が所有する名品を中心とした展示を実施する。

企画展では、前年度に引き続き国立国際美術館開館40周年に伴う「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」を開催する。また、現代美術を理解する鍵となる19テーマによって国立国際美術館のコレクションを展望する「視覚芸術百態：19のテーマによる196の作品」、国内外の現代美術を紹介する展覧会として、日本において感覚的で主観的な新しいタイプの芸術表現が生まれた時代を検証する「1980年代 日本の現代美術（仮称）」、歴史や記憶そして死や不在をテーマとして活動を続ける現代フランスの代表的作家の個展「クリスチャン・ボルタンスキー展（仮称）」を開催する。さらに、プーシキン美術館が所蔵する17世紀から20世紀にかけてのフランスの風景表現で構成された「プーシキン美術館展—旅するフランス風景画」を開催し、幅広い層の関心に応じる。

(国立新美術館)

前年度に開幕した「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」では、長い間広く一般には公開されてこなかった同コレクションから、フランス近代絵画に焦点をあてた選りすぐりの優品を紹介する。これに加えて、平成30年度に新たに開催する展覧会は9本である。「こいのぼりなう！ 須藤玲子×アドリアン・ガルデル×齋藤精一によるインスタレーション」は、日本を代表するテキスタイル・デザイナーである須藤玲子の作品を主体にした大掛かりなインスタレーション展である。音響を取り入れるほか、関連イベントや展示室内で常時楽しめるワークショップ・コーナーも充実させた教育普及に力を入れた展覧会でもある。「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」は、ルーヴル美術館の8部門のコレクションすべてにわたる出品作を通じて、肖像画の特質と社会的役割を古代から辿る壮大な展覧会である。「第21回 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展」では、新しい技術を駆使した斬新な表現を広く紹介する。「エルメス展 (仮称)」は、皮革製品で著名なフランスのファッションブランドの世界観をアートとして紹介する大規模な展覧会である。「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」は、『ジョジョの奇妙な冒険』で知られる日本を代表する漫画家の個展である。「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」は、ナビ派を代表する画家であり、絵画と知覚の問題を独自の造形によって探究したフランス人画家の個展である。「生誕110年 東山魁夷展」は、日本画の巨匠・東山魁夷の足跡を辿る回顧展であり、唐招提寺御影堂障壁画を一挙に展示する。「21th DOMANI・明日展」は、文化庁の「新進芸術家海外研修制度」を利用して海外で研鑽を積んだアーティストたちを取り上げた展覧会で、毎年国立新美術館で開催している。「イケムラレイコ展 (仮称)」は、ドイツを拠点に独自の絵画を探究してきた画家の個展であり、展示室全体をインスタレーションとする斬新な展示を目指す。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、交換展・共同企画展の充実と、所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、5館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。
- ①-3 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。
- ② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「国立国際美術館コレクション まなざしの共有 (仮称)」

(担当館：国立国際美術館)

(ア) 期間：平成30年12月18日 (火)～平成31年2月5日 (火) (38日間)

会場：福岡県立美術館 (福岡県福岡市)

(イ) 期間：平成31年2月16日 (土)～3月24日 (日) (32日間)

会場：豊橋市美術博物館（愛知県豊橋市）

イ 各館の巡回展

「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌き」

(ア) 期間：平成30年7月14日（土）～9月30日（日）（67日間）

会場：江別市セラミックアートセンター（北海道江別市）

(イ) 期間：平成30年10月6日（土）～11月25日（日）（48日間）

会場：まなびあテラス東根市美術館（山形県東根市）

(ウ) 期間：平成30年12月1日（土）～平成31年2月17日（日）（68日間）

会場：瀬戸市美術館（愛知県瀬戸市）

「石川連携展覧会 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品展（仮称）」

(ア) 期間：平成30年7月21日（土）～9月3日（月）（45日間）

会場：石川県輪島漆芸美術館（石川県輪島市）

(イ) 期間：平成30年9月29日（土）～11月18日（日）（44日間）

会場：小松市立本陣記念美術館（石川県小松市）

「東京国立近代美術館工芸館名品展（仮称）」

(ア) 期間：平成30年11月下旬～12月下旬（予定）

会場：石川県立美術館（石川県金沢市）

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25プログラム 100作品（1プログラム4作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：平成30年7月2日（月）～平成31年3月10日（日）

会場：全国190会場（予定）

エ 巡回上映等

(ア) 「国立映画アーカイブ開館記念 NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」(年4回)

期間：平成30年5月、8月、11月、平成31年2月（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

(イ) 「第17回中之島映像劇場—国立映画アーカイブ所蔵作品による」

期間：平成31年3月（予定）

会場・共催：国立国際美術館

(ウ) 「東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク 東京国

際フォーラムで会いましょう。」

期間：平成30年6～7月、9月、11～12月、平成31年2～3月（予定）

会場・共催：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

(エ) 「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」

期間：平成30年6月～平成31年3月

会場：地方会場複数（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 国際的に注目されるメディアアート、マンガ、アニメ、建築、デザイン、ファッション等の様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、「ゴードン・マッタ＝クラーク回顧展（仮称）」において、映像作品、パフォーマンス、食やファッションを取り上げる。〔再掲〕。所蔵作品展「MOMATコレクション」においては、1970年代以降の美術動向中重要な位置を占める映像作品の収集・展示に力を入れるとともに、国立映画アーカイブとも協働し、各時代の世相を示す映像資料を展示内で活用する。

イ 京都国立近代美術館では、「世紀末ウィーンのグラフィック～京都国立近代美術館所蔵作品による～（仮称）」において、平成27年度に収集したウィーン分離派を中心とするデザインコレクションの全貌を紹介する。〔再掲〕。

ウ 国立映画アーカイブでは、教育普及企画の「こども映画館2018年の夏休み★（仮称）」や「映画の教室2018」、並びに京都国立近代美術館との共催事業「MoMAK Films」において、日本アニメーション映画をテーマにしたプログラム等を開催する。さらに一般社団法人コミュニティシネマセンターと共催で「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」の巡回上映を開催し、館外での人材育成活動に有用な教材及びそのプログラムを検証する。

エ 国立国際美術館では、「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」において、映像表現を含む展示及び新たに購入したパフォーマンス作品を紹介する〔再掲〕。また、所蔵作品展では、近年海外の来館者より要望の強かった国立国際美術館所蔵の名品を出品する機会を多く設けると同時に、所蔵する数々の優れた映像作品群を積極的に紹介し、来館者に新しい表現世界に親しむ機会を提供する。

オ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

(ア) 「こいのぼりなう！ 須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」において、日本を代表するテキスタイル・デザイナーの須藤玲子、ルーヴル・ランスの展示デザインでも注目を集めたアドリアン・ガルデール、ジャンルを超えたインタラクティブな活動で知られる齋藤精一のコラボレーションで初めて可能になるインスタレーションを展示する〔再掲〕。

(イ) 「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」では、幅広い世代にファンをもつ日本を代表する漫画家であり独自の世界を切り開いてきた荒木の足跡を、原画を軸に紹介

する〔再掲〕。

(ウ) 平成27年度に開催した「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」を刷新した内容で構成した展覧会「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム ～キャラクターVS.都市：虚構×現実～（仮称）」をパリで開催する。

(エ) 「第21回 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展」では、新しい技術を駆使した斬新な表現を紹介する〔再掲〕。

(オ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2018」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2018」及び「イントゥ・アニメーション」に特別協力する。また、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

② 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 平成30年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 平成32年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

美術に関する情報の拠点としての機能を向上させ、国民の美術に関する理解の促進に寄与するとともに、長期的には、日本・アジアにおける西洋美術の、また世界における日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、平成26年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」において検討を進める。

① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、平成28年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて公開し、国内外の研究促進に貢献する。

また、国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立新美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発を進めるとともに、国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び文化庁文化遺産オンラインとの連携を継続維持するための調査研究を実施する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要23号（平成30年度刊行予定）の全文を、平成31年3月をめどにホームページで公開する。

イ ホームページの更なる機能向上に向けての知見の蓄積を図る。また、ソーシャル・

ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）を活用し、積極的に情報を発信する。

（京都国立近代美術館）

- ア ホームページを12年ぶりにリニューアルし、利用者のニーズの多様化やスマートフォンの普及など、端末の環境変化にあった情報提供に努める。
- イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、SNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- ウ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実を図る。
- エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

（国立映画アーカイブ）

- ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容の充実と、ホームページ、メールマガジン、SNS等を活用した積極的な情報発信に努める。
- イ 外部資金等を活用した所蔵映画フィルム及び関連資料のデジタル化を推進し、外部研究機関等と連携協力したweb公開を行う。

（国立西洋美術館）

- ア 専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて日英2ヶ国語で公開し、国内外の研究促進に貢献する。
- イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。
- ウ 広報の情報発信として、展覧会活動その他の活動状況を日英2ヶ国語のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。
- エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

（国立国際美術館）

- ア 所蔵作品の効率的管理のために所蔵管理システムを改修し、歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、これをインターネットを通じて日英2ヶ国語で公開する。
- イ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- ウ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。また、総合的な情報発信、広報の向上のためにホームページの改修を計画する。
- エ 各展覧会で作成した4ヶ国語のフロアガイドをホームページ上で公開する。

(国立新美術館)

ア SNS等を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。平成27年度に実施したホームページのリニューアルを起点として、スマートフォン等でも使いやすいホームページを整備し、利用者の利便性の向上を目指す。

イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を検討し、情報資源の積極的な活用を図る。

ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アートライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

(東京国立近代美術館)

ア 近・現代美術関連資料を本館アートライブラリー、近・現代工芸関連資料を工芸館図書閲覧室において収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ 「本館・工芸館企画展出品作家索引」を維持し、データベース化してアートライブラリーの閲覧室において公開しその活用を促す。

(京都国立近代美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を開始する。

(国立映画アーカイブ)

映画関連の図書資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。収集資料は研究資料センターにおいて外部利用者にも閲覧可能とする。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、「アート・ディスカバリー・グループ目録」(Art Discovery Group Catalogue)への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 東京文化財研究所と平成28年6月に締結した「美術工芸品を中心とする文化財情報の国内外への発信にかかる基盤形成事業」に基づき、同所による日本の文化財情報の国際発信力強化を支援する。

エ 松方コレクション及び前年度に寄託を受けた林忠正書簡等の研究資源の公開に向けた検討を行う。

(国立国際美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を開始する。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalogプロジェクト）の充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、「アートコモンズ」の収録展覧会情報を広く活用するために文化庁が実施する「文化情報基盤」との連携等を行う。

- ③ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を強化する。そのためのバックアップ用VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）回線を維持する。

(4) 教育普及活動の充実

- ① 年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

(東京国立近代美術館)

(本館)

外国人来館者への働きかけとして対話式の英語ガイドを実施する。その他、所蔵作品展、企画展とともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生の発達段階に応じた鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するキュレーター・トーク、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイドやハイライト・ツアーの実施

ウ 「春まつりトークラリー」や「フライデー・ナイトトーク」など、イベントや夜間開館に対応した解説プログラムの実施

エ 外国人にむけた解説プログラムとして、英語ガイドの募集・養成研修を行い、英語ガイドを実施

オ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、小・中学生向けの「セルフガイド」の会場配布、教員研修、「先生のための鑑賞日」の実施

カ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会、東京都高校美術工芸研究会）との連携による研修への協力

キ 小学校中学年までを対象とした鑑賞教室「こども美術館」と小学校高学年から中学生までを対象とした「トークラリー」の実施及び未就学児とその親を対象とした「おやこでトーク」の実施

(工芸館)

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」のほか、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

- ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートークの実施
- イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の実施
- ウ 小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、研修等への協力
- エ 各種教育機関からの要請に応じた、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施
- オ 夏季の所蔵作品展における児童生徒及び一般来館者を対象とした「セルフガイド」（日本語、英語）の作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」、子供連れの来館者を対象とした「家族でタッチ&トーク」、親子のための言語活動と作品理解の共有を目的としたワークショップの実施
- カ 一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布

(京都国立近代美術館)

幅広い層の人々への美術鑑賞に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層をはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

- ア 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施
- オ 京都市教育委員会等との共催による小・中学校教員を対象とした授業実践力向上講座の開催
- カ 誰もが美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルプログラム構築に向けた調査研究やイベントの開催

(国立映画アーカイブ)

映画及び映画保存に関して、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。

- ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施
- イ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施
- ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2018年の夏休み★（仮称）」の実施
- エ ポーランド大使館等との共催で各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機

会を提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施

オ 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」の実施
〔再掲〕

カ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

キ 映画アーカイブの活動を支える映写技術の学び直しの場を提供する「NFAJ 35 ミリフィルム映写ワークショップ」の実施

(国立西洋美術館)

より多くの人々に美術と美術館に親しんでもらえるように、所蔵作品展と企画展の双方に関連して多様なプログラムを実施する。また、学校、家族、障がいのある人といった特定の対象に向けたプログラムを提供するなど、社会的包摂も視野に入れて活動するよう努める。

ア 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施

イ 「美術トーク」（日曜日及び第1、第3、第5土曜日）及び「建築ツアー」（第2、第4日曜日及び水曜日）の実施

ウ ファミリー・プログラム「どうぶじゅつ」の実施

エ ファン・ウィズ・コレクション（本館建築をテーマにする）の実施

オ クリスマス・プログラム（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施

カ 企画展に関連した講演会とスライドトークの実施

キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム（解説&無料観覧）」の実施

ク 障がいのある人を対象とする特別プログラムの実施

(国立国際美術館)

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に応じた学びを得られるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等を開催するとともに、低年齢層も参加できる各種プログラムを実施する。また、各校種・研究団体と連携し、小・中・高等学校・特別支援学校へのより一層の鑑賞教育の充実を促進する。

ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施

イ 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」の実施

ウ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」の実施

エ 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施

オ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の作成及び配布

カ 小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施

キ 「鑑賞学習を通じた学びを考える会」（小・中・高等学校・特別支援学校の教職員及び鑑賞教育の従事者を対象）の実施

- ク 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- ケ 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

(国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施
- ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施
- エ 鑑賞ガイドの作成及び配布
- オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施
- カ 美術や美術館をテーマとした館長とゲストによるトークイベントの実施
- キ ロビーコンサートの実施
- ク 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。また、会員制度や入会特典等を整理した案内リーフレット等により会員制度の拡充に努める。既存会員には有効期間終了時に通知をし、継続を促す。

(本館)

- ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）による、所蔵作品展の所蔵作品ガイド、「ハイライト・ツアー」、「春まつりトークラリー」、「フライデー・ナイトトーク」及び児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」、「トークラリー」、「おやこでトーク」を実施する。
- イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生の受入れ（スクール・プログラム）等、鑑賞教育の充実を図る。
- ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とファシリテーション・スキルの向上を図る。
- エ 本館ガイドスタッフ（6期生）の募集と養成研修を実施する。

(工芸館)

- ア 工芸館ガイドスタッフ（ボランティア）による、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。
- イ 工芸館ガイドスタッフによる、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。
- ウ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とトーク技

術の向上を図る。

(京都国立近代美術館)

- ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。
- イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館と連携して会員証提示による優待割引を実施する。

(国立西洋美術館)

- ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。
- イ ファミリープログラム「どうようびじゅつ」の共同企画及びボランティア企画による「ボランティアアート・プログラム」の実施を通して、活動への意欲と積極性を促す。
- ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。

(国立国際美術館)

- ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。
- イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

(国立新美術館)

- ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。
- イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。
- ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表2のとおり各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表2のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、

図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

イ 展覧会に伴う図録を発行する。

(本館)

小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」を発行する。

(工芸館)

ア 夏季の所蔵作品展「こども×おとな工芸館（仮称）」において、児童生徒及び一般来館者を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する。

イ 一般来館者向けとして作品の情報と鑑賞のヒントを解説文と写真で紹介する「鑑賞カード」を発行する。

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。

イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。

(国立映画アーカイブ)

ア 上映会や展覧会に伴う刊行物を発行する。

イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュースZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。

イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

イ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」を発行する。

(国立新美術館)

ア 研究紀要『NACT Review』、展覧会に伴う図録、『国立新美術館 活動報告』等の刊

行物を発行する。

イ 鑑賞ガイドを発行する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。

また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。

イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）に可能な限り努める。

ウ 館内において無料Wi-Fiを提供する。

エ 一般向けに国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語）を制作し、ホームページ上でも公開することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。

(東京国立近代美術館)

(本館)

ア ガイドマップ等を活用し、館のイメージ刷新や東京駅方面からの来館者の誘導に努める。

イ 館紹介パンフレット（日本語、英語）を配布する。また、ホームページ上にも掲載し、更なる周知に努める。

ウ 国外の主要メディア（主に観光レジャー系）に館を紹介するプレスリリースを配信し、外国人の来館促進を図る。

エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

オ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。

カ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。

キ 所蔵作品展において、小・中学生向けの「セルフガイド」を配布する。

ク 企画展において、可能な限り「フロアガイド」を配布する。

ケ エントランスホールを含め、館内サイン環境や快適さを向上させるための備品配置など具体策を策定、一部実施する。

コ 来館者サービス充実に向け、来館者の意見をより適正に把握するため、常設の電子アンケート（日本語、英語）を活用する。

サ 非来館者調査を行い、新しい観客層のニーズの把握を行う。

シ 「美術館の春まつり」など、歳時や地域と連携した全館イベントを企画・実施し、館の魅力を上げるとともに来館者層の拡大を図る。

ス 夏季を中心に、夜間開館の効果的な広報を他館と連携して企画・実施する。

〈工芸館〉

ア 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した「鑑賞カード」の充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。

イ 夏季の所蔵作品展「こども×おとな工芸館（仮称）」において、児童生徒及び一般来館者を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する。

〈京都国立近代美術館〉

ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。

ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。

エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。

オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

〈国立映画アーカイブ〉

ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。

イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上にも掲載し、更なる周知に努める。

ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。

エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。

オ 以下の展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。

- ・「国立映画アーカイブ開館記念 没後 20 年 旅する黒澤明 榎田寿文ポスター・コレクションより」
- ・「国立映画アーカイブ開館記念 生誕 100 年 映画美術監督木村威夫（仮称）」

〈国立西洋美術館〉

ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。

ウ 国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、同時に世界遺産に登録された 7 か国 17 資産の建物等を紹介するパンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

オ 所蔵作品や本館の特徴を説明するための Wi-Fi を利用したコンテンツの制作を検討する。

(国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会において、フロアガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- ウ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」を配布する。
- エ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- オ タブレットを介したテレビ電話形式による同時通訳システム（SMILE CALL）を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。
- カ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- キ QRコードを用いて展覧会場のパネル類の多言語化（中国語、韓国語）を図る。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

(国立美術館全体)

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化の普及広報に努める。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。
- イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。
- オ 「国際博物館の日」に当たっては、各館以下のような記念事業を実施する。
 - (ア) 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び国立西洋美術館では5月18日（金）を所蔵作品展の無料観覧日とする。
 - (イ) 国立映画アーカイブでは、5月18日（金）を展覧会の無料観覧日とする。
 - (ウ) 国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引を実施する。
- カ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。
- キ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2018」に参加し、観覧料の割引を実施する。

ク 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西 2018」に参加し、観覧料の割引を実施する。

ケ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。

(東京国立近代美術館)

ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。

イ 東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。

ウ 東京刊行情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。

エ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。

(京都国立近代美術館)

ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。

イ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

ウ 京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との観覧料の相互割引の実現に努める。

(国立映画アーカイブ)

ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。

イ 上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、企画上映において整理券配布を行う。

ウ 社会人や遠方に住む上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、前売券制導入について検討を行う。

エ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。

オ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

(国立西洋美術館)

ア クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。

イ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。

ウ 上野地区の文化施設に一定価格で入場できる「UENO WELCOME PASSPORT —上野地区文化施設共通入場券—」（期間限定、年2回発行予定）を作成し、各文化施設の相互連携により、商業施設も含めた観光客の誘致と回遊性の向上を図り、来館

者サービスの充実と来館者の増加を目指す。

エ 第2・第4土曜日及び毎週金・土曜日の夜間開館時の所蔵作品展観覧料を無料とする。

(国立国際美術館)

ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。

イ 「大阪周遊パス 2018」、大阪市交通局「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

オ 館全体を使用した所蔵作品展を行うにあたり、6月2日(土)を全館無料観覧日とし、国民が広く所蔵作品等に親しむ機会を提供する。

(国立新美術館)

ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。

イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。

ウ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。

エ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。

オ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。

カ クレジットカード及び電子マネー(Suica及びPASMO等)による観覧券の窓口販売を行う。

キ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービスの向上を図る。

イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会にあわせた関連書籍やグッズをより充実させる。

ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進するとともに、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、更なる来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップのリニューアル、オリジナルグッズの開発、販売方法等を検討する。また、夜間開館時の館内レストランの営業時間を、展覧会終了の1時間後まで延長する。

エ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている

商品情報等を充実させる。

オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

近代日本美術の体系的コレクションの構築を図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充

イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集

ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。

イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

- ア 15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。
- イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。
- ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

- ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。
- イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

各館における対策はもとより、収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。

また、新たな保管施設が整備されるまでの間、特に狭隘化が進んでいる東京国立近代美術館及び京都国立近代美術館の所蔵作品の一部を外部の民間保管施設に保管することで、美術作品の適正な保管と保全を図る。

(3) 所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工、金工作品の現状保存修復を行う。また、過去の展覧会に出品されたポスターのクリーニング等を行う。さらに、作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを継続して行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示できない美術作品を中心に保存修復処置を行う。経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い近代絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行う。近年収蔵した旧松方コレクションについても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。

オ 国立国際美術館では、展示・貸出予定のある作品、新収蔵作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

(4) 所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。

② 展覧会等の紹介や企画につき海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 東京国立近代美術館では、韓国国立近現代美術館（韓国・ソウル、平成31年2月～5月（予定））及びナショナル・ギャラリー・オブ・シンガポール（シンガポール、平成31年6月～9月（予定））を巡回する「アジアの目覚め：美術と社会 1960-1990年代（仮称）」を共同企画・共同開催する。

イ 京都国立近代美術館では、国際交流基金との共催により「京都の宝：琳派300年の創造（仮称）」展（会場：パリ市チュルヌスキ美術館、平成30年10月26日～平成31年1月27日（予定））及び「藤田嗣治（仮称）」展（会場：パリ日本文化会館、平成31年1月15日～平成31年3月16日）を開催する。また、パリ日本文化会館（平成30年7月14日～9月15日）及びトゥールーズ・ロートレック美術館（平成30年9月29日～12月17日）で開催される「井上有一（仮称）」展に特別協力し多数の所蔵作品を貸与する。

ウ 国立国際美術館では、大館美術館（中国・香港、平成31年3月頃（予定））で開催予定の「Cyberpunk（仮称）」展を共同研究・共同開催する。

エ 国立新美術館では、平成27年度に開催した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」の規模や内容を刷新した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム ～キャラクターVS. 都市：虚構×現実～（仮称）」をラ・ヴィレット（フランス・パリ、平成30年11月29日～12月29日（予定））に巡回させる。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実にための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成30年8月6日（月）～8月7日（火）

会場：国立西洋美術館、国立新美術館

募集人員：約100名

ウ イの研修について教員免許更新講習として実施する。

②-1 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立映画アーカイブにおいて、若い世代を対象とした鑑賞者教育と、映画保存に関わる人材育成プログラムを、学校や関連団体と連携しつつ実施する。

(ア) 映画及び映画保存に関わる人材育成プログラムとして、学生と20代社会人向けの「映画の教室 2018」を実施

(イ) 映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催

エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

オ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関

係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

- ① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企业の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 公開当時の画調を忠実に再現するために、カメラマンの立ち会いの下、フィルム複製を行うとともに、必要なデータを保存する。

イ フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。

- ② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mmフィルム等大型映画、3D映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の素材をもとに、可能な限りオリジナルの再現を目指したワークフローを実施する。また、映画会社や海外のフィルム・アーカイブと共同で最新のデジタル復元を実施する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。

- ③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、フィルム・コレクションのデジタル・ファイル化及び配信等のデジタル・アクセスに対する検討を行う。

- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。

- ⑤ 海外において以下の共催上映を実施する。

ア 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」公式企画「日本映画の100年」

期間：平成30年9月～平成31年2月（予定）

会場：シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館（パリ・フランス）ほか（予定）

共催：国際交流基金（予定）

イ 第37回ポルデノーネ無声映画祭「サウンド版——トーキー移行期の日本映画（第二部）」

期間：平成30年10月（予定）

会場：ジュゼッペ・ヴェルディ市立劇場（イタリア・ポルデノーネ）

共催：チネテカ・デル・フリウリ

- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。
- ⑩ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。
- ⑪ 中期目標期間中の「全国映画資料館録」更新版刊行のため、全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

（1）省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

（2）共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1回程度）により、

随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレットペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗剤、脱臭器具の賃貸借

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、平成30年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークの一元化を基盤として、TV会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPNバックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算の効率的な執行に努める。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

施設利用等の施設貸出収入や会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

4 収支計画

別紙のとおり。

5 資金計画

別紙のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

- (1) 理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。
- (2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。
また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。
- (3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。
平成 30 年度は、以下の施設・設備の整備等を進める。
(平成 29 年度補正予算措置に基づく施設整備)
ア 国立美術館防災減災対策等工事
- (2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

(1) 方針

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。
 - ア 新規採用者研修
 - イ 接遇研修
 - ウ ハラスメント、メンタルヘルスケアに関連する研修
 - エ 情報セキュリティ研修

- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度並びに特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

5 その他

- (1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

- (2) 「工芸館移転の基本的な考え」（平成 28 年 8 月文化庁公表）を踏まえ、東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備を進める。

3 予算（年度計画の予算）

平成30年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	7,539
展示事業等収入	1,295
寄附金収入	650
施設整備費補助金	1,810
計	11,294
支 出	
運営事業費	8,834
管理部門経費	1,110
うち人件費	540
うち一般管理費	570
事業部門経費	7,724
うち人件費	995
うち美術振興事業費	2,714
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,534
うちナショナルセンター事業費	481
寄附金事業費	650
施設整備費	1,810
計	11,294

4 収支計画

平成30年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	6,234
經常経費	6,234
管理部門経費	1,109
うち人件費	540
うち一般管理費	569
事業部門経費	4,313
うち人件費	995
うち美術振興事業費	2,682
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	374
うちナショナルセンター事業費	262
寄附金事業費	650
減価償却費	162
収益の部	6,234
運営費交付金収益	4,127
展示事業等の収入	1,295
寄附金収益	650
資産見返運営費交付金戻入	150
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	9

5 資金計画

平成30年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	11,294
業務活動による支出	9,417
投資活動による支出	1,877
資金収入	11,294
業務活動による収入	9,484
運営費交付金による収入	7,539
展示事業等による収入	1,295
寄附金収入	650
投資活動による収入	1,810
施設整備費補助金による収入	1,810

別表1 平成30年度 所蔵作品展・企画展 計画

※所蔵作品展の入館者については、各館において、前中期目標期間における年間平均入館者数以上を目標とする。

目標入館者数 全館合計	3,502,500 人
所蔵作品展	766,500 人
企画展	2,662,000 人
NFAJ上映会	61,500 人
NFAJ展覧会	12,500 人

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「美術館の春まつり」, 「瀧口修造と彼が見つめた作 家たち」,「遠くへ行きたい (仮称)」,「明治後期の美 術」他特集およびコレクショ ンによる小企画を含む)	—	6回展示替え	291	184,000	本館所蔵 作品ギャ ラリー
企画展	①生誕150年 横山大観展	京都国立近代美術 館、日本経済新聞 社、毎日新聞社	4/13 (金) ~ 5/27 (日)	40	150,000	本館企画 展ギャラ リー, ギャラ リー4
	②ゴードン・マッタークラーク 回顧展 (仮称)	—	6/19 (火) ~ 9/17 (月)	79	35,000	本館企画 展ギャラ リー
	③アジアの目覚め:美術と社会 1960-1990年代 (仮称)	国際交流基金	10/10 (水) ~ 12/24 (月)	66	20,000	〃
	④福沢一郎展 (仮称) ※1	—	3/12 (火) ~ 5/26 (日)	18	5,000	〃
	企画展 計				203	210,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					394,000	

※1 通算の開催日数は66日間、目標入館者数は19,000人。

〈工芸館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	名工の明治 こども×おとな工芸館 (仮 称) 近代工芸の名品 (仮称)	—	2回展示替え	153	40,500	工芸館
企画展	①日本・スウェーデン外交関 係樹立150周年記念 インゲ ヤード・ローマン展	—	9/14 (金) ~ 12/9 (日)	75	18,000	工芸館
	②杉浦非水と図案の時代 (仮 称) (前期・後期) ※1	—	2/9 (土) ~ 4/7 (日) 4/10 (水) ~ 5/26 (日)	45	19,000	本館ギャ ラリー4
	③備前展 (仮称) ※2	NHK、NHKプロモー ション	2/22 (金) ~ 5/6 (月・祝)	34	6,000	工芸館
企画展 計				154	43,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					83,500	

※1 通算の開催日数は94日間、目標入館者数は40,000人。

※2 通算の開催日数は67日間、目標入館者数は12,000人。

〈本館〉・〈工芸館〉	合計	477,500 人
	所蔵作品展	224,500 人
	企画展	253,000 人

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	5回展示替え	295	118,000
企画展	①明治150年展 明治の日本 画と工芸 ※1	京都新聞	3/20 (火) ~ 5/20 (日)	44	11,000
	②生誕150年 横山大観展	東京国立近代美術 館、日本経済新聞 社、毎日新聞社	6/8 (金) ~ 7/22 (日)	39	100,000
	③バウハウスへの応答※2	バウハウス協会ベ ルリン・デッサ ウ・ヴァイマー ル、ゲーテ・イン スティトゥート、 世界文化の家	8/4 (土) ~ 10/8 (月)	(57)	(30,000)
	④生誕110年 東山魁夷展	日本経済新聞社、 テレビ大阪	8/29 (水) ~ 10/8 (月)	36	120,000
	⑤没後50年 藤田嗣治展	朝日新聞社、NHK 京都放送局、NHKプ ラネット近畿	10/19 (金) ~ 12/16 (日)	51	100,000
	⑥世紀末ウィーンのグラ フィック～京都国立近代美術 館所蔵作品による～ (仮称)	—	1/12 (土) ~ 2/24 (日)	38	10,000
	⑦京都の染織 (仮称) ※3	—	3/15 (金) (予定) ~ 4/14 (日) (予定)	15	6,000
企画展計				223	347,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					465,000

※1 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は14,000人。

※2 コレクション・ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

※3 通算の開催日数は27日間 (予定) , 目標入館者数は10,000人。

(国立映画アーカイブ)

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	①国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。	—	4/10 (火) ~ 4/22 (日)	12	4,000	長瀬記念ホール OZU
	②国立映画アーカイブ開館記念 映画にみる明治の日本 (仮称)	—	4/24 (火) ~ 5/13 (日) 8/14 (火) ~ 9/2 (日)	36	8,500	〃
	③EUフィルムデーズ2018	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関	5/26 (土) ~ 6/21 (木)	23	10,500	〃
	④国立映画アーカイブ開館記念 日本におけるロシア年 2018 ロシア・ソビエト映画祭	ロシア文化フェスティバル組織委員会	7/10 (火) ~ 8/5 (日)	24	7,500	〃
	⑤国立映画アーカイブ開館記念 第40回PFF	一般社団法人PFF、公益財団法人ユニジャパン、公益財団法人川喜多記念映画文化財団	9/8 (土) ~ 9/22 (土)	13	4,500	長瀬記念ホール OZU (一部小ホール)
	⑥国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。—無声映画篇—	—	10/16 (火) ~ 10/21 (日)	6	1,500	長瀬記念ホール OZU
	⑦アメリカ映画特集 (仮称)	—	10/25 (木) ~ 11/4 (日)	10	3,500	〃
	⑧国立映画アーカイブ開館記念 生誕100年 美術監督 木村威夫	—	11/6 (火) ~ 11/25 (日)	16	4,500	〃
	⑨日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 スウェーデン映画特集 (仮称)	—	11/27 (火) ~ 12/23 (日)	24	6,000	〃
	⑩国立映画アーカイブ開館記念 映画プロデューサー 黒澤満	—	1/8 (火) ~ 1/27 (日)	18	6,000	〃
	⑪国立映画アーカイブ開館記念 アンコール特集	—	5/9(水), 5/23(水), 6/6(水), 6/20(水), 6/22(金)~6/24(日), 6/30(土)~7/1(日), 7/4(水), 10/10(水), 10/24(水), 11/7(水), 11/17(土)~ 11/18(日), 11/21(水), 12/5(水)	17	2,500	小ホール
	⑫国立映画アーカイブ開館記念 シネマ・エッセンシャル (仮称)	—	8/21 (火) ~ 9/2 (日)	12	2,500	〃
上映会 計				211	61,500	
展覧会	①国立映画アーカイブ開館記念 没後20年 旅する黒澤明 槇田寿文ポスター・コレクションより	—	4/17 (火) ~ 9/23 (日)	128	8,000	
	②国立映画アーカイブ開館記念 生誕100年 映画美術監督 木村威夫 (仮称)	—	10/16 (火) ~ 1/27 (日)	81	4,500	
	展覧会 計				209	12,500
上映会 ・ 展覧会 合計					74,000	

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	290	321,500
企画展	①プラド美術館展 ベラスケ スと絵画の栄光 ※1	プラド美術館、読 売新聞社、日本テ レビ放送網、BS日 テレ	2/24 (土) ~ 5/27 (日)	50	200,000
	②ミケランジェロと理想の身 体	NHK、NHKプロモー ション、読売新聞 社	6/19 (火) ~ 9/24 (月)	87	220,000
	③ルーベンス展—バロックの 誕生	TBS、朝日新聞社	10/16 (火) ~ 1/20 (日)	81	175,000
	④ル・コルビュジエ 絵画と 建築—ピュリスムの時代 (仮称) ※2	東京新聞、NHK	2/19 (火) ~ 5/19 (日)	37	55,000
	企画展 計			255	650,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					971,500

※1 通算の開催日数は82日間、目標入館者数は328,000人。

※2 通算の開催日数は80日間、目標入館者数は140,000人。

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	3回展示替え	179	102,500
企画展	①開館40周年記念展「トラベ ラー：まだ見ぬ地を踏むため に」 ※1	—	1/21 (日) ~ 5/6 (日)	32	10,000
	②視覚芸術百態:19のテーマ による196の作品	—	5/26 (土) ~ 7/1 (日)	32	8,000
	③プーシキン美術館展—旅 するフランス風景画	朝日新聞社	7/21 (土) ~ 10/14 (日)	74	138,000
	④1980年代 日本の現代美術 (仮称)	—	11/3 (土) ~ 1/20 (日) (予定)	61	13,000
	⑤クリスチャン・ボルタンス キー展 (仮称) ※2	—	2/9 (土) ~ 5/6 (月) (予定)	44	10,000
企画展 計			243	179,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					281,500

※1 通算の開催日数は92日間、目標入館者数は 28,000人。

※2 通算の開催日数は76日間、目標入館者数は 18,000人。

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	①至上の印象派展 ビュール レ・コレクション ※1	東京新聞、NHK、 NHKプロモーション	2/14 (水) ～ 5/7 (月)	33	133,000
	②こいのぼりなう！ 須藤玲 子×アドリアン・ガルデール ×齋藤精一によるインスタ レーション	—	4/11 (水) ～ 5/28 (月)	43	90,000
	③ルーヴル美術館展 肖像芸 術一人は人をどう表現してき たか	ルーヴル美術館、 日本テレビ放送 網、読売新聞社、 BS日テレ	5/30 (水) ～ 9/3 (月)	85	333,000
	④第21回 文化庁メディア芸 術祭 受賞作品展	文化庁	6/13 (水) ～ 6/24 (日)	11	45,000
	⑤エルメス展 (仮称)	エルメスジャポン	7/11 (水) ～ 7/30 (月)	18	38,000
	⑥荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋	集英社	8/22 (水) ～ 10/1 (月)	36	111,000
	⑦オルセー美術館特別企画 ビュール・ボナール展	オルセー美術館、 日本経済新聞社	9/26 (水) ～ 12/17 (月)	72	232,000
	⑧生誕110年 東山魁夷展	日本経済新聞社	10/24 (水) ～ 12/3 (火)	36	210,000
	⑨21th DOMANI・明日展	文化庁	1/12 (土) ～ 3/3 (日)	44	22,000
	⑩イケムラレイコ展 (仮称) ※2	—	1/23 (水) ～ 4/1 (月)	59	19,000
企画展 計				437	1,233,000

※1 通算の開催日数は73日間、目標入館者数は300,000人。

※2 通算の開催日数は60日間、目標入館者数は20,000人。

別表2 各館の平成30年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)

(本館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
横山大観と明治の日本画に関する調査研究	京都国立近代美術館	ア
ゴードン・マッタ＝クラークと都市におけるプロジェクトに関する調査研究	ゴードン・マッタ＝クラーク・エステート、山梨大学	ア
1960-1990年代のアジアの美術に関する調査研究	韓国国立近現代美術館、シンガポール国立美術館、国際交流基金	ア
福沢一郎と戦前の前衛美術に関する調査研究	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館、(財)福沢一郎記念美術財団	ア
日本のアニメーション草創期における美術作品の影響についての調査研究	—	ア
美術における窓についての調査研究	YKK窓研究所	ア
ピーター・ドイグと90年代以降の絵画動向に関する調査研究	ピーター・ドイグ	ア
2000年代の建築における公共性についての調査研究	隈研吾建築都市設計事務所	ア
美術における眠りと夢についての調査研究	—	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
「コレクションによる小企画 瀧口修造と彼が見つめた作家たち」	—	ア
「コレクションによる小企画 遠くへ行きたい(仮称)」	—	ア
明治後期の美術	—	ア
デイヴィッド・スミスを中心とした戦後彫刻の展開	—	ア
軍用機献納作品展(1942年)の出品作品	—	ア
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂(写真家)	ア
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会、東京都中学校美術研究会、東京都高校美術工芸研究会	イ
国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ(NDL Search)及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
アート・ディスカバリー・グループ目録(Art Discovery Group Catalogue)への参加可能性の検討	—	ウ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充(独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に)	—	ウ

エントランスホール等共用部の環境整備	西澤徹夫建築事務所	オ
美術館への非来館者層に関する動向調査	—	オ
褐色したカラー映画の復元と長期保存に関する基礎的研究	科学研究費基金、3年目	ア
70ミリ映画のアーカイブにむけた基盤形成	科学研究費補助金、3年目	ア
美術館の所蔵作品を活用した探究的な鑑賞教育プログラムの開発	科学研究費補助金、3年目	イ

〈工芸館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
鈴木長吉と明治工芸	東京藝術大学	ア
「こども×おとな工芸館」	—	ア、イ
インゲヤード・ローマンとスウェーデンのデザイン	スウェーデン国立美術館	ア
杉浦非水と近代の図案	—	ア
備前焼の歴史と作品	益子陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、MIHO MUSEUM、兵庫陶芸美術館、岡山県立美術館	ア
近・現代漆芸の歴史と作品	石川県輪島漆芸美術館	ア、イ
近・現代陶磁の歴史と作品	小松市立本陣美術館	ア、イ
近・現代工芸（ガラス・染織・人形・金工）の歴史と作品	石川県立美術館	ア、イ
近・現代工芸の歴史と展開	江別市セラミックアートセンター、東根市美術館、瀬戸市美術館	ア、イ
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会	イ
工芸館石川移転に伴う環境整備	石川県、金沢市	ア、オ
工芸館石川移転後の現工芸館建物利用計画の検討	—	ア、オ

（京都国立近代美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
明治の日本画と工芸作品	—	ア
横山大観	東京国立近代美術館	ア
日本におけるバウハウス：新建築工芸学院を中心に	国立西洋美術館、早稲田大学	ア
東山魁夷	国立新美術館	ア、オ
藤田嗣治	東京都美術館	ア
世紀末ウィーンのグラフィック	目黒区美術館	ア
京都の染織	—	ア

児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	京都市図画工作研究会	イ
ユニバーサルな美術館体験プログラムに関する調査研究	京都教育大学、京都市立芸術大学、京都府立盲学校等	イ、オ

(国立映画アーカイブ)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
映画の保存と活用	—	ア
映画にみる明治の日本	—	ア
ヨーロッパ諸国の映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
ロシア・ソビエトの映画	—	ア
日本の自主映画	PFJパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン	ア
1918年、1928年の劇映画	—	ア
アメリカの映画	—	ア
美術監督 木村威夫の映画		ア
トーキー以後のスウェーデン映画	スウェーデン映画協会	ア
映画プロデューサー 黒澤満の映画	—	ア
映画史上の映画	—	ア
黒澤明監督作品とその宣伝美術	—	ア
映画美術監督木村威夫	日本映画・テレビ美術監督協会（仮）	ア
国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAP）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAP会員、国内外の同種機関、現像所	ア
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAP会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等	ア、エ
映画におけるデジタル保存と活用	FIAP会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、IT関連研究教育機関、映画製作会社、映画関連団体、放送局、映像機器メーカー、現像所、IT関連会社等	エ
映画の収集のための原版の所在ならびに権利帰属等の情報収集と調査	映画製作会社等諸団体	ア
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—	ウ
京都を撮った無声劇映画	京都国立近代美術館	ア
東京を描いた文化・記録映画とホームムービー	東京国際フォーラム	ア
こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
社会人を対象にした映画教室プログラム	—	イ
映写技術をテーマにした教育プログラム	—	イ

映画復元に関する技術をテーマにした教育プログラム	—	イ
--------------------------	---	---

(国立西洋美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	プラド美術館	ア
ベラスケスと17世紀スペイン絵画	—	ア
古代とルネサンスにおける身体の理想	—	ア
ルーベンスとバロック美術の誕生	—	ア
中世末期から20世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画作品	—	ア
美術館教育	—	イ
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	ル・コルビュジエ財団	ア
在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究	科学研究費補助金、3年目	ア
美術作品や歴史資料における彩色の膠着材の同一複数の分析法からのアプローチ	筑波大学 科学研究費基金、3年目	ア
古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～	科学研究費基金、3年目	ア
近現代日本における人形の創作およびその受容に関する研究	科学研究費基金、3年目	ア
近現代日本における人形とジェンダー	科学研究費補助金、2年目	ア

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
現代美術の動向	—	ア
抽象作品について	—	ア
ボルタンスキー	国立新美術館、長崎県美術館	ア
アジア圏におけるタイムベースド・メディア、メディア・アート	大館美術館（香港）	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	—	イ
美術館教育	—	イ
現代美術の保存修復	—	ア
所蔵作品展のキュレーションについて	—	ア
パフォーマンス作品	—	ア

国内外のキュレトリアルリサーチ	現代美術センターCCA北九州、国際交流基金	ウ、オ
-----------------	-----------------------	-----

(国立新美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
肖像画	ルーヴル美術館	ア
ピエール・ボナール	オルセー美術館	ア
東山魁夷	京都国立近代美術館	ア
荒木飛呂彦	—	ア
ボルタンスキー	国立国際美術館、長崎県美術館	ア
イケムラレイコ	—	ア
ハイジュエリー研究	カルティエ財団	ア
ドイツ表現主義	—	ア
日本のマンガ、アニメ、ゲーム	一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構	ア
日本のファッションとデザイン	京都服飾文化研究財団、島根県立石見美術館	ア
古典と現代	國華社	ア
佐藤可士和	—	ア
美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
美術情報の収集・提供システム	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ